

# 国賠ネットワーク NO.121

## 2010.1.16

発行:奇数月 定例会:偶数月第1木曜日 神田駅「エリゼ」  
年会費 2000円 郵便口座 国賠ネットワーク 00200-2-6473

<http://www.jca.apc.org/kokubai> ¥200

〒235-0045 横浜市磯子区洋光台4-26-18 土屋方 TEL 045-831-4993

### 一人ひとりの文明批判

今年 1年、巻頭の頁を埋めることになった。元気の出るものにしたいと思いますが、どうなるものやら……。藍染めを制作し、個展で見てもらい買ってもらうことをたつきとしているが、不況の波はもろに襲いかかってくる。思い通りに行かないことばかり。大袈裟に言えば生命の危機を肌を感じながら、この世にあることのむき出しの不安とおのれの意味をかみしめている。でも、昨年流行ったスローガンのように「生きさせろ！」とは言わない。

「職をよこせ」、「米よこせ」は真っ当な社会的要求だが、「受身形の生きさせろ」は全く意味が違ふ。「生きる」とは、自分だけが持つ想像力の空間をはばたく言葉だからだ。貧富の格差の問題は深刻である。だがこの「生きさせろ」のように、きわめて個人の精神領域に帰属する「希望」とか「自己幻想」にまで、格差社会が影響を及ぼし始めているとしたら、マジにやばい。ぼくたちが「逆風」だと感じている今も、子供たちにはいつでも背中を押してくれる風が吹く。その子供たちの夢「精神世界の創造エネルギーである自分を好きになること」は、しまわずに健康でいてくれるだろうか。

マイケル・ムーア監督のドキュメンタリー映画「キャピタリズム(資本主義)」というのをみた。これまでアメリカの銃社会への警告(ボーリング フォー コロンバイン)、イラク侵攻の批判(華氏 911)、医療 保険問題の告発(シッコ)なども見てきたが、今回は少し違ふ。どう違うかという、アメリカ社会の狂気に対してフムフムと頷いてばかりはいられないからだ。<欲望のゲーム>による世界同時不況の中での大量解雇と失業、多重債務、住居を追い出されたホームレス…これ、まさに今の日本そのものじゃないか。しかもアメリカのそれと違い、希望としての民衆の反乱がない分、よけに深刻に考えさせられた。民主主義は資本主義と共存 両立できないのではないかと。

加えてマイケル・ムーアは、「アメリカンドリーム」そのものが瓦解していったと描く。ある時期ある段階までの自由主義経済に内在する自己責任と自助努力が、社会的なエネルギーとして作用した「三丁目の夕日」の世界は崩れ去ったのか。だから、だ。どんな時代にあっても、「生きさせてもらう」というのは、個の精神的な敗北に他ならない。

国賠ネットの運動でも問われているのは、現実の不当な権力行使の被害に対する実効的な対処。それと同時に、この国の貧困な人権を切開する百年を単位とするような視点と、その為の一人ひとりの言葉の復権ではないのか。個人の思いを社会制度に反映させていく困難な作業をしながら、さらには、この貧困の枠組みを支える民衆の意識の内側に浸透していかなければならない。人権というのは社会が所有するものではなく(社会は保障するだけ)個人に帰結 帰着することではじめて花開くものだと思うからだ。

【松永 優】